

子どもに夢を！たくましく豊かな創造性を！

2025年6月30日

第32号

すくらんぶる

活動情報

7/3地域文化事務局会議

7/11～31

長崎県子ども舞台芸術祭典

7/15 県内例会企画会議

8/1 祭典全体事後交流会

8/5 乳幼児部 ZOOM 会議

8/26 理事会

9/21 県高校生青年

交流合宿実行委員会



長崎県子ども舞台芸術祭典30周年記念講演会

げき×こども×ちいきの可能性

～考え方を考えるだけで溢れ出てくるみんなの元気～

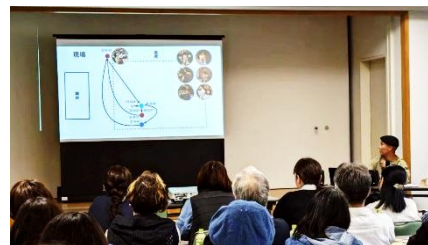
2025年4月29日(火・祝) 講師:西上寛樹さん

13:30～15:30 東彼杵町教育センター研修室

児童演劇の劇作家であり演出家でもある西上寛樹さんは、3年間の地域おこし協力隊を経験し、現在は鹿児島県伊佐市在住。シナリオ工房・天邪鬼をかまえ、地域に根差した半オフグリット生活をしています。今回の演題“げき×こども×ちいき”は、西上さんがこの間ずっと考えてきたことで、講演会のために100枚以上の写真を準備しながら「この内容で話せることが楽しくてしょうがなかった」と勢いのある声で始まりました。

Part1では“劇のどこが豊かな体験なのか？”について語られました。豊かな体験というと、劇を観ることそのものにあると思いがちでしたが、西上さんの視点はなんと！客席の子どもたち。子どもたちが劇を観る時、誰かとくっついていることに秘密があるというのです。「子どもたちは、どうしてくっついているのでしょうか」と会場に投げかけます。さらに「子どもたちはどうして顔を見るのか、どうしてしゃべるのか」と続き、その理由を検証していきました。子どもが劇を観て、発した言葉、表現はお互いの共感をよび、波のように響き合う。舞台上演じている役者にもその共感のエネルギーが伝わり、さらに交流の輪が巡っていく。実際の映像から見えてくる子どもたちの動き、声、表情、言葉、笑いなどがそのことを教えてくれているようでした。「子どもたちにとって劇を観ることは“交流の営み”ではないか」という答えに辿りつきます。このことが劇と映像との大きな違い、交流の中にこそ豊かな体験がある。会場中がなるほど！納得！という空気に包まれました。

Part2では“劇から見えてくる地域の安心”と題して「子どもたちが安心して劇を観るには？」を客席の様子をスライドで見ながら一緒に考えていきました。その中で、人形劇「おいしいのぼうけん」を観ている諫早子ども劇場のMちゃんの動きに焦点が当てられました。Mちゃんの足どりを追うように会場はスライドに映るMちゃんの移動する姿に注目しました。お母さんはもとより、隣の方、スタッフ、よそのお姉ちゃん、またスタッフ・・・と次々に誰かのお膝に座ったり、動いたりしながら劇を楽しんでいました。そこで質問「Mちゃんは、なぜこんなに動いたのでしょうか」さらに「なぜ動くことができたのでしょうか」と続きます。それは「知っている人がいっぱいいたから。そして、誰にも抑えられなかったから・・・」コミュニティとは“家族をまたぐ安心の輪”という言葉がとても心に残りました。長年子ども劇場は生の舞台芸術を親子で観ることを続けてきました。その中で、たとえ子どもが劇を観られない時があってもいずれは観られるようになる、劇を観ることが必ずしも1番の目的ではなく、根気強く「一緒に子育てしましょう！」という安心の輪の中に誘っていたのだと感じました。



Part3では、子どもたちの元気をまんなかにした地域の交流が目的の公演では、最初の「お約束」は、「しゃべらない」とか「立たない」とかではなく、子どもたちが安心して自分を表現できるような言葉かけがいいのではないかと提案もされました。自称「客席を見つめる演出家」西上寛樹さんは、「大切なものはもう子どもたちの中にある」と確信していました。劇を観ながらしゃべる子どもたちの言葉に字幕を付けて「子どもはすごい！」と言いきり、子どもを見つめるまなざしはとても温かでした。また、子どもたちのその自然な言葉を引き出す人形劇の力もすごい！と思う瞬間でもありました。

長崎県子ども舞台芸術祭典は“子どもと舞台との出会いを通して子どもたちが豊かに生き生きと育つ地域づくりをすすめています”この目的は“子どもたちが暮らす地域に安心の輪をつくりたい”という言葉に置き換えることもできます。講演会の最初にこの祭典の目的をしっかり押さえてくださった西上さんは「大切なものはもう皆さんの中にある！小さな安心がたくさん生まれる祭典を応援しています」という言葉で締めくくってくださいました。講演が終わってからの感想交流もとても大事にされる西上さん。音楽家の方や祭典に今年初めて取り組まれる方と平土間で観る良さについての話に花が咲きました。自らも公演を主催した経験があるからこそ、30年続けてきた祭典へのリスペクトが言葉の端々に感じられました。祭典30周年を迎えるにあたり、新たなスタートをきる元気が自分たちの中からも溢れ出てくる講演会でした。会場にいた一人ひとりも、またオンラインで視聴した方々もたくさんの感想の中にその思いが語られていました。



第7回 県内高校生青年交流合宿

日時：2025年3月21日(金)19時～3月23日(日)12時

場所：美呆閑（波佐見町小樽郷 598-3）

テーマ：「たいっ！」

～あいたいっ！つくりたいっ！わらいたいっ！はなしたいっ！

うたいたいっ！あそびたいっ！はしりたいっ！～

参加者：（ながさき）8名／高校生5名、青年2名、大人1名

（佐世保）5名／高校生4名、大人1名

（諫早）7名／高校生2名、青年4名、大人1名

（県連）1名／大人1名



県内高校生交流合宿は早いもので第7回目を迎えました。今年も実行委員会の形式は変えず、3劇場の青年代表1名と参加できる高校生、各劇場から大人1名と県連1名で実行委員会をつくり、話し合いを重ねてきました。今年もたくさん交流したいという高校生の声があり、2泊3日の交流合宿に決定。今年の会場は佐世保でできないかと検討し、佐世保子ども劇場にあたってもらい、波佐見の美呆閑が候補にあがりました。

下見にいくと、田んぼや山々に囲まれて、ゆったりとした時間を過ごせる場所でした。また、別館もあり、そこにはカラオケ機材もあったため、紅白歌合戦ができるかも？と企画に取り入れることにしました。また他に佐世保の高校生から去年に続き、食料争奪戦をやりたいと声もあがり、2日目の晩御飯は食料争奪戦に決定しました。ほかに高校生たちから遊びたい、走りたい、会いたい、話したい、歌いたいとたくさんの「やりたい」が出てきたので、今年のテーマを「たいっ！」に決定し、出てきた「やりたい」をサブテーマにしました。

合宿当日、ながさきのオープニングでスタート。他劇場の青年や高校生との交流に新高校生たちは少し戸惑いながらも、ボードゲームで遊んだり、語り合ったりして、交流を楽しんでいました。また、進学で県外に旅立っていく高校生も「参加できてよかった～」と移動するギリギリまでみんなとの時間を噛みしめてました。県交が県外に進学していく高校生の節目となる企画になってきたことは、大きな喜びです。

翌朝、一晩中遊び、笑い、語り合った反動で、少し疲労の顔が……。県外に旅立っていく高校生を見送った後、昼からの県交恒例企画の「人狼鬼ごっこR」に備えて、少し仮眠。今回はゆるやかなスケジュールにしていたことで贅沢な時間を過ごせました。その後はグラウンドで「人狼鬼ごっこR」「だるまさんが転んだ」で思いっきり走り、遊び、戻ってきてから「紅白歌合戦」で歌い、食料争奪戦で盛り上がりました。テーマにかかげた「たいっ！」を満喫できたと思います。

今回、高校生として参加していた子が青年となり、共に高校生のやりたいことを実現していく仲間になりました。これは継続して開催してきた大きな成果だと思います。次回は、もう一度初心に返るつもりで交流合宿の目的を実行委員会で話し合い、よりよい第8回の県高校生青年交流合宿にしていきたいと思います。

実行委員長 末吉祥士（あっきー）



第24年度 通常総会を開催しました。

2025年6月13日(金) 10:30～12:30

諫早市たらみ図書館研修室

出席：正会員14（団体4、個人10）

評決委任2、書面評決2、オンライン4名

オブザーバー参加8名 / 総参加人数 20名

小さい子を連れての参加や初参加、オンライン参加もあり各子ども劇場の活動紹介や、意見や提案もたくさん出され、それぞれに力をもらい、また新たな年度がスタートしました。



子どもたちの 「言いたい！決めたい！やってみたい！」

VOL.4



子ども劇場は、子どもの権利条約31条(子どもの文化権の保障)の実現をめざして日々活動しています。2023年に開催した講演会の中での北島尚志さんの言葉に共鳴し、このコーナーが誕生しました。「子どもたちの“言いたい、決めたい、やってみたい”を大切にしよう！」という視点から、各地の子どもの姿や大人たちの取り組みを紹介します。今回は、佐世保子ども劇場の青年・稲岡咲朋さんと乳幼児活動副代表の稲岡理恵さん親子に寄稿してもらいました。

もともと私は、自分の考えを会議の場で発表することが苦手でした。高校1年生の頃、県内高校生青年交流合宿に関する会議の中で、周りが積極的に意見を出し合う中、自分の考えをうまく伝えられず、会議に積極的に参加することができませんでした。しかし、青年の皆さんが意見を伝えやすい雰囲気を作ってくださったことで、思い切って自分の意見を述べることができました。そして、その意見が1つの案として受け入れてもらえたことで、考えを言葉にすることの大切さや、自分の声にも価値があるのだと気づくことができました。この経験を通じて、高校生活でもリーダーとして周囲を引っ張るようになり、その後の県内高校生青年交流合宿の話し合いでも、自分の意見や感想を積極的に伝えられるようになりました。私はこの経験を今後も大切に、社会に出たときにも必ず役立つと感じています。その思いから専門学生となった今も、佐世保子ども劇場に在籍し続けることを決めました。

佐世保子ども劇場・青年/稲岡咲朋

我が家の子ども3人は赤ちゃんの頃に入会し、例会に足を運び自主活動やキャンプなども含め様々な経験をさせていただき成長しました。中でも真ん中の子の咲朋は、乳幼児期に少し敏感な時期があり、劇の部屋に入るのを嫌がるようになったことがありました。困っていた時、周りの方から「会場の外から見てみる？」と声をかけていただきました。子どもが無理をしない選択肢をもらえたことが、その時の私自身の心の救いにもなりました。劇場の皆さんの温かさや明るさには、本当に何度も助けられてきました。高校生になると、佐世保の青年たちをはじめ県内各地の高校生や青年たちと関わる機会が増えました。会議などで自分の意見を言うことが大切にされるだけでなく、みんなで話し合いながら何かを作り上げていく過程そのものが楽しく居心地の良い時間となっていたように思います。今は県外の学校で動物のことを学びながら、動物を通して人と関わりたいという思いを育てています。そんな思いが自然と育ってきたのも、子ども劇場での多様な人との出会いと、ありのままを受け止めてもらえる体験があったからだと思っています。

佐世保子ども劇場・乳幼児活動副代表/稲岡理恵

第30回長崎県子ども舞台芸術祭典の作品 2025年7月11日～7月31日

「にっこりぽっかり座」「あなたがうまれるまで」「サクラがいく!!」「やもじろうとはりきち」「マイ・クロ・シアター」「へんてこげきじょう」



子ども劇場 舞台鑑賞情報

★参加方法などについては各地の子ども劇場事務局までお問い合わせください。

作品名(団体名)	月日(曜)	開演時間	会場	主催
あなたがうまれるまで (人形芝居ひつじのカンパニー)	2025年 7月20日(日)	14:00	西諫早公民館・講堂 (諫早市)	諫早子ども劇場
にっこりぽっかり座 (劇団風の子九州)	7月26日(土)	13:30	勝本町ふれあいセンターかざはや (壱岐市)	壱岐子ども劇場
イノシシと月 (劇団さんぽ)	9月27日(土)	18:30	メルカつきまちホール (長崎市)	ながさき子ども劇場

**NPO法人
長崎県子ども劇場連絡会**

〒850-0057
長崎市大黒町 4-26
北村第一ビル 303 号室
TEL: 095-825-0533
FAX: 095-825-6151
E-MAIL: n.kogeki@alto.ocn.ne.jp

県内子ども劇場

ながさき子ども劇場
TEL: 095-825-0533

佐世保子ども劇場
TEL: 0956-22-6747

諫早子ども劇場
TEL: 0957-23-5689

壱岐子ども劇場
TEL: 0920-44-5010

Web サイト

<http://www.nakogeki.sakura.ne.jp/>

発行

NPO法人長崎県子ども劇場連絡会

★ご意見・ご感想をお寄せください。

★編集後記★

今年 8 月、長崎では被爆 80 年の夏を迎える。昨年、日本被団協がノーベル平和賞を受賞した喜びもつかの間、ロシアのウクライナ侵攻は 3 年を過ぎても終息がみえず、イランとイスラエルの紛争は一旦収束したとの発表があったが核兵器使用の脅威が迫っている。

九州の子ども劇場は、各県と共に公演の取り組みを進める「わ・和・輪企画」を続けている。今年の作品は、ミュージカル「バウムクーヘンとヒロシマ」(イツ・フォーリーズ)。ながさき子ども劇場も 11 月の公演実施に向けて動き出した。取り組みを前に各県の代表者と共に 4 月に広島に似島(にのしま)を訪れた。

長崎と同じ被爆地であり、似島は日清戦争の時代から検疫所が設置され、帰還する兵士や捕虜からの伝染病が国内へ侵入するのを阻止する場所だった。自然豊かで穏やかな島には今もなお戦争の爪痕が残されていた。また、ここはドイツ人捕虜として収容されていたカール・ユーハイムさんが日本で初めてバウムクーヘンを作ったという発祥の地。原爆ドームは、その頃は物産館として賑わっていたことを初めて知った。長崎でのこの公演の取り組みは、青年・高校生が中心となり、他団体や県内はもとより県を超えての若者の交流を目指す。戦争について、また平和について考え合いたい。8 月の終わりに再び青年・高校生たちと似島を訪れることになった。若い世代の人たちが、似島の地に立ち何を思い何を感じるか語り合うのが楽しみだ(丁)

長崎県子ども舞台芸術祭典30周年特別企画

全体事後交流会

♪と き 2025年 8月1日(金) 13:30~15:30(受付 13:10~)
♪と ころ 東彼杵町総合会館 2 階大会議室
(東彼杵町彼杵宿郷 706-4)

♪テーマ 「げき×こども×ちいきの可能性~
私たちはなぜ祭典を続けるのか~」

♪内 容 オープニング: KURO さん(OH オフィス)
によるパフォーマンス!!

トークセッション: 仮屋祐一さん(劇団風の子九州)

つげくわえさん(くわえ・ぱぺっとステージ)

北村直樹さん(人形芝居ひつじのカンパニー)

木下美和子(長崎県子ども舞台芸術祭典事業長)

聞き手: 山口泰代(長崎県子ども舞台芸術祭典事業事務局長)



KURO さん



仮屋さん



北村さん



つげさん

団体概要

子どもの豊かな成長と地域の子どもの文化芸術振興に寄与することを目的に 2002 年に N P O 法人として活動を開始しました。長崎県内にある 4 つの子ども劇場や、子どもに関わる団体や個人の方とのつながりを大切にしながら、地域の文化活動を支援しています。長崎県子ども舞台芸術祭典や舞台公演のコーディネイト、講演会や学習会などの事業を行っています。

子どもに夢を!

たくましく豊かな創造性を!

私たちは子どもの文化を応援します。

長崎ヤクルト株式会社

長崎市樺島町 4 番18号
TEL095-821-8960

社会福祉法人小野保育園

諫早市小野町 676-2
TEL0957-23-0120

**ダイハツチバナ
有限会社 林田車体工業**

〒854-0126 諫早市松里町 288
TEL 0957-23-5318 FAX 0957-24-1378

ますみクリニック

〒850-0952 長崎市戸町 2 丁目20-57
OKホーム&ガーデン戸町店横 弁慶岩バス停前



古豊歯科医院

長崎市小峰町 3-16
☎ 095-843-4165

**ホテル
ウイング・ポート長崎**

医療法人 マツオ内科クリニック

TEL 0957-25-2225
FAX 0957-25-2220



九州商船

長崎市元船町16番12号
TEL 095-828-3125



雲仙市愛野町乙 5864

☎ 0120-54-1238
月曜~土曜 受付時間 9:00~18:30

FAX 0956-58-3637
24時間受付(年中無休)